CAD-Net

臨床糖尿病支援ネットワーク
MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

糖尿病専門医と非専門医の違いは？

［当法人理事］
那珂記念クリニック
調　進一郎［医師］

臨床医学系の学会にはさまざまな専門医制度がある。「ボクは糖尿病専門医だ！」と威張りたいところだけれど、糖尿病専門医と非専門医の違いは何だろう。神奈川県保険医協会で全国の開業医にアンケート調査（505施設。対象2型糖尿病患者8070人）を行い、糖尿病専門医と非専門医の治療の違いを検討したことがある。その結果、インスリンを使っている患者はさすがに専門医のほうが多かった（第63回日本糖尿病学会にて発表）が、内服薬の使い方やHbA1cには専門医と非専門医で大きな違いは認めなかった（第62回日本糖尿病学会にて発表）。血糖コントロールや合併症の管理がむつかしい患者を専門医は非専門医から紹介を受け治療している事が差がなかった一因と推察できるが、専門医と非専門医で内服薬の使い方やHbA1cに大きな差がない事には、ちょっとビックリ（正直、がっかり？）した。

最近はDPP-4阻害薬やSGLT2阻害薬、更には注射薬であったGLP-1RAの内服薬が発売となり、低血糖や体重増加などの懸念が少なく使いやすい内服薬が治療の主流となっている。GLP-1RAやインスリンのデバイスも進歩し、導入の説明も簡便になってきた。インスリンやSU薬のように低血糖を気にしながら、細かい用量調整（専門医の腕の見せ所）を必要としない経口薬でも多くの糖尿病患者を治療できるというすばらしい時代になってきている。

では、我々糖尿病専門医と非専門医の診療の違いは何だろう？ボクは、糖尿病療養指導士など糖尿病に詳しいコメディカルと一緒に患者さんを診ているか、否かではないかと思っている。『糖尿病診療にはチーム医療が大事！』。耳にタコができるほど繰り返されてきた鉄板フレーズだが、これを実践しているのが糖尿病専門医ではないだろうか。糖尿病診療の質は医師だけではなく、皆様、コメディカル達が決め手になっている。糖尿病専門医の仕事は薬を処方することだけではなく、より多くの糖尿病療養指導士などのコメディカルを育て、一緒に患者を診るシステムを作り、食事・運動療法を含めた総合的な治療を実践していくことである。

糖尿病専門医の存在意義を上げるも下げるも皆様コメディカル次第。これからも“チーム医療”、がんばりましょう！

読んで単位を獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、1年につき2単位（5年間で10単位）を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。）

問題　●次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

61歳、男性。15年前に2型糖尿病を指摘、強化インスリン療法で治療中。先月定年退職し、会社員時代は忙しくて出来なかった運動療法に取り組もうとはりきっている。運動歴は小・中学校で剣道。20年前から禁煙。単純網膜症あり、眼科に通院中。

【身体所見】身長168 cm、体重71 kg。血圧153/86 mmHg、脈拍65/分。両側アキレス腱反射消失
【検査所見】空腹時血糖値146 mg/dL、HbA1c 6.8 %、TG 306mg/dL、HDL-C 36mg/dL、LDL-C 161mg/dL、Cre 1.46 mg/dL、eGFR 39.4 mL/min/1.73m2、尿ケトン体（-）

この患者に対する対応・評価として誤っているのはどれか、2つ選べ。

1. 運動強度 8METs程度の運動を提案する
2. 加速度計付歩数計の装着を指導する
3. 運動として下肢のストレッチングを指導する
4. 生活活動として重い荷物の運搬の反復を指導する
5. 運動に対する変化ステージは準備期である

報告　2022年度　西東京糖尿病療養指導プログラム

日時：令和4年7月10日（日）
オンライン

第18回 西東京薬剤研修会

［当法人評議員］　大和調剤センター　森　貴幸［薬剤師］

2022年7月10日にZoomミーティングを用いて第18回西東京薬剤研修会を行ったのでご報告いたします。4つのセクションのうち3つをそれぞれ1名の先生に、合計3名の先生に講演を行っていただきました。

1つ目の演題『糖尿病自己注射製剤の進化』としてかんの内科　菅野　一男先生にインスリンの歴史、デバイスの歴史、GLP-1受容体作動薬などの進化を教えていただきました。インスリンを発見して100年の間に起きたことが手に取るようにわかり、とても興味深い内容でした。

2つ目の演題『糖尿病機器の進化』として多摩センタークリニックみらい　藤井　仁美先生にCSII、isCGM、SAP、HCL（ハイブリッドクローズドループ）などについてご講演していただきました。日本のデバイスはアメリカと比べまだ遅れはありますが、HCLの登場で大分進んできたと教えていただきました。

3つ目の演題『経口血糖降下薬の進化』として杏林大学医学部　安田　和基先生にメトホルミンの新たなる作用、SGLT-2阻害薬、経口GLP-1受容体作動薬、新しいイメグリミンの作用機序を含めてご講演いただきました。

最後のセッションでは実行委員のメンバーで「糖尿病症例でトレーシングレポートを書いてみる！」と題してシンポジウムを行いました。トレーシングレポートは薬局においてはとても重要な位置にあるが無意味に出すことだけを目的とならないように解説を行い、薬局と病院をつなぐツールとなっていくことが望ましいと思いました。

これからの薬剤師による患者支援に役立つ講演会でした。この講演をきっかけにして頑張って薬剤師業務を遂行できれば嬉しく思います。来年は会場で参加者が集まり開催ができると嬉しく思います。

第6回 西東京臨床検査研修会

［当法人会員］　杏林大学医学部付属病院　鈴木　光一　［臨床検査技師］

百瀬　崇先生

7月10日（日）に「第6回西東京臨床検査研究会」が杏林大学井の頭キャンパスを会場としてZoomを利用し、開催されました。今回のテーマは「糖尿病療養指導士の可能性・タスクシェア・シフトで臨床検査技師はどこまでできるか」という題で前年より参加者が多く、密度の濃い内容となりました。

午前の講演はケトアシドーシス患者を例にとって、杏林大学医学部付属病院から糖尿病代謝内科医師で本法人の代表理事でもある近藤　琢磨先生にケトン体代謝についての生理的意義、治療と注意点、特に最近のケトン体による臓器・細胞保護作用について、また、薬剤部の小林　庸子先生より糖尿病治療薬について新薬の治験とバイオシミラーが認可される経過の概要を交えて、わかりやすく講演していただきました。

午後の講演は、北陸大学医療保健学部、油野　友二先生よりタスクシフト・シェアについてという話題となっている業務拡大についての講演をしていただき、業務の一つであるCGMの概要をテルモ株式会社様とアボットジャパン合同会社様から、東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝内科　百瀬　崇先生より糖尿病治療におけるCGMデータの活用法という題で症例を交えながら、AGPについての解説をしていただきました。コロナ渦での開催であり、タスクシフト・シェアが関心事であるなかでの充実した研究会となりました。

報告　2022年度　西東京糖尿病療養指導プログラム

日時：令和4年7月10日（日）
オンライン

第6回 西東京運動療法研修会

［当法人会員］　調布くびと腰の整形外科クリニック　水谷　健［理学療法士］

7月10日（日）に『第6回西東京運動療法研修会』が開催され、「糖尿病と脚」について6人の先生方にご講演いただきました。以前から、糖尿病の方は運動器の疾患を抱えている方が多いと話題に上がっていたのですが、理学療法士が糖尿病患者様へ介入する際、神経障害・切断・疼痛等の2次障害が発生してしまった方に対して、いかに重症化させないか、3次障害を予防する役割で介入することが多いのが現状です。しかし糖尿病を罹患した方の生活を整える、動きやすい身体作りを行う上では、まずは2次障害を防ぐことが重要となってきます。

我々運動療法チームは、昨年末に上記のテーマを決定した後、糖尿病と運動器疾患の関連は？最近よく聞く、糖化や筋膜との関連は？痛みや神経症状になる前からチェックする方法は？股・膝・足関節の痛みの原因は？など話し合いを重ね、プログラムを立てていきました。

午前中には、糖尿病と運動器疾患、FASCIA、閉塞性動脈硬化症について、午後には、足・膝・股関節の評価方法と運動療法を実技も含めご講演いただきました。

中でも特に興味深く聞かせていただいたのは、銭田先生にご講演いただいたFASCIAについてです。序盤は、FASCIAの生理学的な話を非常に詳しく教えていただきました。中盤では実臨床について、問診からエコーを用いた評価、治療の流れ。終盤にはまだ明らかにはされていない、高血糖によるFASCIAへの影響について、仮説を含めご教示いただきました。運動器疾患をお持ちの糖尿病患者様だけでなく、運動器の診断名はついておらず、歩く時に軽い痛みがある方なども多くいらっしゃいます。個人個人に動きやすい身体作りを提供し、2次障害の予防を図っていく上では、患者様それぞれに即した運動療法、オーダーメイドの運動療法が不可欠かと思います。そのオーダーメイドの仕方を、より詳細に確認する方法を教わるような1日になりました。

報告　第33回武蔵野糖尿病医療連携の会Hybrid 学術講演会

日時：令和4年7月9日（土）
地域保健企画ビル/オンライン

7月9日（土）に、第33回武蔵野糖尿病医療連携の会Hybrid学術講演会を、「糖尿病診療における身体活動及びスポーツを考える」というテーマに、地域保健企画ビル（立川市）を会場として会場参加ならびにWeb配信のHybrid形式にて開催し、70名を超える方にご参加いただきました。

演題1では、府中よつやクリニック 院長 市川 雅先生より『高齢者糖尿病のフレイル対策～コロナ禍を踏まえ～』と題し、糖尿病患者さん、特に高齢者の運動習慣の実際と運動療法の有効性についてのポイント、新型コロナウィルス感染拡大下でのフレイル対策を、様々なデータや運動方法、クリニックでの実際の取り組みやコツとともにご提示いただきました。

演題2では、東京都立多摩総合医療センター 内分泌代謝内科　部長 辻野 元祥先生より『日々の身体活動から考える糖尿病治療～減量のための運動という幻想にサヨナラを～』と題し、コロナ禍での活動度低下の影響とその対策、多摩総合医療センターにおける糖尿病チーム医療の実際の取り組みや課題についてもご提示いただきました。

演題3では、東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 天川 淑宏先生より『骨格筋の役割はエネルギー消費のみでない内分泌器官としての働きがある（時間がないとできない1万歩の運動じゃなく短時間でも至強度がポイント）』と題し、糖尿病の運動療法の実際と課題、骨格筋の新たな内分泌器官としての役割などを動画とともに詳細にわかりやすくご教示いただきました。運動療法については、糖を活用しやすい筋肉づくりとしての「ストレッチングの効果」も体験することができました。各先生方のご講演後は、ご参加された方々からのご質問も多くいただき、大変な盛況のうちに講演会を終了いたしました。

報告　西東京CDEの会　第20回例会

日時：令和4年7月16日（土）
オンライン

［当法人会員］　立川相互病院　長谷部　翼［理学療法士］

7月16日（土）に『西東京CDEの会　第20回例会』がオンライン（Zoom）で開催されました。今回のテーマは『「ミトコンドリア糖尿病」って何？聞いたことがある方もない方もこの機会にみんなで一緒に学びませんか！』と題し、普段関わることが非常に少ないミトコンドリア糖尿病について知識を深める研修会を企画しました。

当日は看護師、薬剤師、管理栄養士など計43名の方々が参加されました。冒頭では杏林大学医学部糖尿病・内分泌・代謝内科 教授の安田 和基先生より「ミトコンドリア糖尿病について学ぶ」というテーマでご講演いただきました。細胞小器官であるミトコンドリアについて、代謝的側面からみた働きをはじめ、機能異常によるインスリン抵抗性増大・分泌低下の機序や病態の特徴（感音性難聴、母系遺伝など）、診断方法や治療法について詳細かつ明快に解説していただき、とても理解が深まる内容でした。

その後、実臨床で患者さんに療養指導として携わった経験について4名の先生よりご講演いただきました（執筆者、今野 里美先生、下田 ゆかり先生、豊島 麻美先生）。各演者の視点より患者さんとどのように関わっていけば良いのか解説いただいた中で、我々医療スタッフが病態をよく理解することの重要性が強く感じられました。参加者アンケートでは、「私自身、聞き馴染みのない希少な疾患であったため非常に勉強になりました。」や「個々の患者さんの背景や病態を理解する必要が大切であることを改めて実感しました。参加してとてもよかったです。」と、とても満足度が高い意見が寄せられました。

ミトコンドリア糖尿病の罹患率はわが国で糖尿病患者の約1％とされており、一般人だけでなく我々医療職種にも周知されていないため、本疾患もスティグマを受ける可能性があると考えられます。本研修会にてミトコンドリア糖尿病の病態や実際の療養指導について参加者の皆様と学べたことは貴重な経験になりました。

報告　第8回北多摩糖尿病カンファレンス

日時：令和4年7月20日（水）
オンライン

令和4年7月20日（水）19:30よりオンライン配信にて『第8回 北多摩糖尿病カンファレンス』が、代表世話人のイムス三芳総合病院　貴田岡 正史先生の開会の挨拶により開催されました。今回のテーマである「脂肪肝」について、非常に工夫された演題でご講演が視聴者全員楽しみであると述べられました。

特別講演は、当番世話人の杏林大学医学部付属病院 安田 和基先生のご司会で、奈良県立医科大学 吉治仁志先生より『本当はコワい脂肪肝～糖尿病との深いカンケイ～』と題しご講演を賜りました。糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）は非常に親密に結び付いています。NAFLD患者おいての糖尿病罹患率は約6割と言われており、またNAFLDによって2型糖尿病発症リスクは約2倍という報告もあります。そのなかで、吉治先生より（消化器）肝臓専門医のお立場からNAFLD治療への早期介入や肝線維化進展の抑制のために肝臓専門医への紹介基準を明確に示すことで、NAFLD患者を多く診る糖尿病専門医並びにそれに携わる医療者へ分かりやすく啓発されました。NAFLDはいまや肝臓の疾患に留まらず、心血管リスクなど様々な疾患への悪影響が出ているという報告もございます。質疑応答については会場並びにオンライン上で活発にやり取りをされました。

最後に、本会の代表世話人かんの内科 菅野 一男先生より閉会の挨拶をいただき閉会いたしました。「糖尿病と脂肪肝」について専門医同士協力体制を整え、治療にあたっていくことの重大さを再認識させるものだったと述べられました。オンラインでの開催となりましたが40名弱の方々に視聴いただき大変有意義な会となりました。

学会のHOTトピックス

第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会

令和4年9月17日（土）～18日（日）

Web開催

［当法人理事］
杏林大学医学部付属病院
小林　庸子［薬剤師］

第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会が、2022年9月17日（土）・18日（日）にパシフィコ横浜ノースを会場として開催された。と報告する予定で実行委員として準備を重ねてきたが、やはり新型コロナの感染状況を考慮し、当日は本会場を配信会場として完全Web配信＋オンデマンド配信で開催することとなった。

〇シンポジウム1：既往歴に「妊娠糖尿病」をみつけたらあなたが出番です！

座長：森 貴幸先生、影山 美穂先生

演者：①「妊娠中にみられる糖代謝異常への対応と産後のフォローアップについて」 近藤　琢磨先生（杏林大学医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科）、②「妊娠周辺期における糖代謝異常の管理」 古川　誠志先生（河北総合病院 産婦人科）、③「妊娠と糖尿病　既往歴に「妊娠糖尿病」を見つけたらあなたが出番です！」 小林　庸子（杏林大学医学部付属病院 薬剤部）

参加者の大半を占める薬剤師は、妊婦の糖代謝異常についての知識はかなり少ない。近藤先生からは内科医師の立場から、また、古川先生からは産婦人科医師の立場から、大変わかりやすくGDMや糖尿病合併妊娠についてお話いただいた。妊娠中の血糖コントロールの必要性はもとより、出産後の血糖の評価も将来の2型糖尿病の発症予防に必要であることが理解できた。

〇シンポジウム2：一緒に考えて糖尿病患者を在宅・施設で療養生活を自分らしく生き抜くために

座長：大木　一正先生、小林　庸子

演者：①「糖尿病在宅患者の治療と医療従事者の役割 ～「療養・介護支援ガイド」の活用～
近藤　琢磨先生（杏林大学医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科）、②「糖尿病患者の在宅における訪問看護師の役割」 豊島　麻美先生（武蔵野赤十字訪問看護ステーション）、③「在宅における地域包括支援センターの役割」 細江　学先生（東村山市南部地域包括支援センター）

臨床糖尿病支援ネットワークで作成した、糖尿尿在宅患者の療養・介護支援ガイド「糖尿病を持つ人が在宅で健やかに暮らすために」が筆者である先生方より紹介された。

https://www.cad-net.jp/index.php/news/detail/71

〇シンポジウム4：継続的薬学管理のための手引き

日本くすりと糖尿病学会では、「適正な糖尿病薬物療法のための低血糖対策支援のてびき」や「糖尿病薬適正使用のためのシックデイルール指導のてびき」などを公表している。本シンポジウムでは、それらについて紹介された。

https://jpds.or.jp/category/guidance/

〇教育講演1：薬局で使える！療養支援に役立つシックデイカード

日本くすりと糖尿病学会では、「糖尿病薬適正使用のためのシックデイカード」を公表している。本シンポジウムでは、おくすり手帳に挟むなどの使用法が紹介された。

https://jpds.or.jp/sick-day-card/

読んで単位を獲得しよう

答え　1，4　**下記の解説をよく読みましょう。**　**（問題は1ページにあります。）**

解説

1：×　8METsはランニング、水泳など高強度の運動に相当するが、本症例はCKDステージG3、単純網膜症があるため、強度の運動は推奨されない。

2：〇　加速度計付歩数計は歩数や運動強度（METs）、消費カロリーの算出が可能である。目標設定の計画や効果判定をする際の指標にもなるため、運動継続には有効なデバイスである。

3：〇　ストレッチは主運動の前後に行うもので運動器障害の予防にも有効であるため、本症例にも適応される。

4：×　重量物の運搬は8METsの活動に相当する。選択肢1の解説文と同様、合併症の観点から高強度の身体活動は推奨されない。

5：〇　準備期は療養行動の実行には至っていないが計画を立てている段階であり、本症例に該当する。

研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業　◆ 共催・後援事業　□ その他

□ メディカルスタッフWebセミナー in Tokyo 2022

申込必要

開催日：２０２２年１１月９日（水）１９：００～２０：４０
参加方法：Zoomにて開催いたします
申　込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（11/6締切）
問合せ：サノフィ㈱（担当：江幡）　TEL:0120-852-297
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：２単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜看護１群＞：０．５単位申請中　他

参加費無料　オンライン

◆ 第13回 ブルーライトアップ　－ スカイタワー西東京 －

申込必要

開催日：２０２２年１１月１２日（土）１６：３０～１８：００
参加方法：Zoomにて開催いたします
申　込：セミナープログラムに掲載のURLより
　　お申し込みください（11/12締切）
問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局　TEL：042-322-7468

参加費無料　オンライン

□ 第59回 糖尿病診療ー最新の動向［医師・医療スタッフ向け研修講座］

申込必要

開催日：２０２２年１１月２７日（日）９：３０～１３：００
参加方法：Zoomにて開催いたします
参加費：３，０００円
申　込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください（11/20締切）
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：７単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中　他

オンライン

◆ 第23回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

申込必要

テーマ：『糖尿病の新治療』
開催日：２０２２年１２月３日（水）１５：００～１７：５５
参加方法：Zoom　／　立川相互病院　２階講堂（ＪＲ中央線「立川駅」北口下車　徒歩８分）
参加費：医師　１，０００円　／　医師以外　無料
申　込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（11/30締切）
問合せ：サノフィ㈱（担当：吉田）　TEL:080-6629-8766
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：３単位
☆日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：１２、１５、７６）：２単位３カリキュラム申請中

ハイブリッド

事務局からのお知らせ

事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただくことがございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00／13:00～16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

お悩み解決　《マイページ Q&A 》

「L番号」が
認定番号です

Q.認定番号って何ですか？

A.認定番号とは、西東京糖尿病療養指導士の認定を受けた者に付与される、Lから始まる番号です。
マイページには、「L番号」と掲載しておりますのでご確認ください。

発行元
一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468　FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記

“秋深し、隣は何をする人ぞ”　芭蕉の声が聞こえてきそうな今日この頃です。コロナ禍も、もうすぐ3年が経過しようとしています。“秋深し、隣は感染だいじょうぶ？”などとソーシャルディスタンスを気にする日々がまだ続きそうです。今冬はインフルエンザ対策も含め、感染との闘いは続きそうです。糖尿病患者さんに寄り添いながら冬を乗り切ってまいりましょう。　（広報委員　川越　宣明）